

おわりに

兵庫ワイルドライフモノグラフ 12 号では「兵庫県における外来哺乳類の現状と課題」をテーマに、これまでの行政施策と研究成果の振り返りを行いました。本号から 11 年前の 2009 年 3 月にアライグマをテーマとして兵庫ワイルドライフモノグラフ 1 号「兵庫県におけるアライグマの現状」を発行しました。その第 1・2 章において 2009 年までの分布拡大・農業被害の推移を示し、将来のさらなる分布・農業被害拡大を懸念し、その対策として捕獲と防護柵、これらを実施する体制作りの重要性に言及しています。2009 年から現在までに適切な対策が取られ、分布・農業被害は減少したのでしょうか。分布拡大に関しては“いいえ”、農業被害に関しては“どちらともいえない”と言わざるを得ない状況です。分布拡大は第 1 章でまとめましたが衰えを見せず数年後には兵庫県全域に密に生息する状況になりそうです。農業被害は分布拡大と異なり「深刻」・「大きい」被害は急激な増加を見せず、局所的に防護柵や捕獲の効果がある可能性があります。さらなる被害拡大の抑制には対策をより強化することですが、第 2 章でまとめた市町毎の実施体制では、市町毎にばらつきがあり、ある程度の被害がないと捕獲や情報収集の体制が確立されない状況が明らかになりました。兵庫県では 2006 年に「アライグマ防除指針」を作成し、県・市町・住民の対策の役割を明確にしました。今一度この指針に立ち戻る必要があります。兵庫県森林動物研究センターでは毎年、これらの現状をモニタリングし、将来発刊するモノグラフ等で改めて対策の効果を検証したいと考えています。

最後になりましたが、査読責任者の山端主任研究員をはじめ論文査読に協力いただいた方々、本モノグラフでの分析の基盤となった過去からのデータの蓄積にご尽力いただいた方々に、この場を借りて感謝したいと思います。

兵庫ワイルドライフモノグラフ 編集委員会
責任編集者 栗山武夫